

# 「経営厳しい」裏腹の疑惑

## 「おわび」「一方で」詳細控える「連発

東京電力福島第一原発事故の後、「経営が厳しい」として電気料金値上げしてきた関西電力。利用者に負担を強いる一方で、そのトップらが立地自治体の元助役から多額の金品を受け取っていた。「原発マネー」が還流したのでは。説明責任を果たすよう求める声が高まっている。



記者会見の途中、厳しい表情を見せる関西電力の岩根茂樹社長＝27日午後0時25分、大阪市北区、白井伸洋撮影

### 関電社長会見

岩根茂樹社長の会見は27日午前11時、大阪市北区の関西電力本店で始まった。冒頭、「多大なご心配やご迷惑をおかけし、深くおわびします」と謝罪し、10秒近く頭を下げた。「信頼を失墜させた」とも述べたが、授受した金品の中身などについては「詳細は差し控える」と繰り返した。岩根社長を含む役員ら20人が福島県高浜町の森山栄治元助役(故人)から金品を受け取ったことが明らかになったのは、東日本大震災が起きた2011年以降の7年間分。関電が原発の再稼働をめざし、社員への賞与支給を見送るなど合理的な値上げしてきた時期と重なる。

### 「原発安全に直結」市民団体が抗議

福井県の杉本達治知事は27日、「重要な公益事業を担う企業のコンプライアンスのあり方として極めて遺憾。国民・県民に対し事実を明らかにし、しっかりと説明責任を果たす必要がある」とコメントした。同県高浜町の野瀬豊町長も「事実であるなら大変遺憾。原子力発電に対する社会的信頼を損ねることも十分ながらねない」と話す。関西電力の筆頭株主である大阪市が3月まで市長を務めた吉村洋文大阪府知事は記者団に、「金品を受領していたのは大問題。公共性の高い会社でもあるので、事実関係を徹底的に解明し、オープンにすべきだと強く求めた」。

### 「客観的な調査 必要」

神戸学院大の上脇博之教授(憲法学)の話 関西電力の隠蔽(いんぺい)体質がよく表れた会見だった。東京電力福島第一原発事故で原発に対する世論が厳しい中、関電の説明責任は非常に重い。しかし、会見では、いつ、誰が、何をもらい、どれだけの期間を経て返却したのかなどの具体的な事実の説明がほとんどなかった。関電は工事発注との因果関係を否定するが、納得できる根拠の説明もない。関電が、原発工事の価格を上乗せして企業に発注し、元助役を通して、金を還流させたのではないかと、といった疑惑も、会見の説明では払拭(ふっしょく)できていない。関電と、元助役に金を流した土木建築会社を第三者が客観的に調査する必要もある。

### 「返せるとき返そうと」還流認識ない

岩根社長による記者会見の主なやり取りは以下の通り。誰がいくら受け取ったのか。20人いる。総額は3億2千万円。儀礼の範囲内のもので以外はすでに返却している。関電が発注した工事資金が関電に還流したという認識は

あるか。そのような認識はない。見返りとなるような対価的な行為はな、発注プロセスについても社内ルールに基づき、適切に実施していた。社長就任後に受け取ったか。なせ拒まなかったのか。地元の有力者とお世話になって、社長室ではなく別の部屋で。先方も厳しい態度で返

却を拒まれた。関係悪化を恐れ、いったんお預かりして返せる時に返そうという判断を続けてきた。社長就任後に受け取ったか。本人に聞かないと分からない。なせそのようなことをされたのかは、私自身も分からない。

## かんぽ法令・規定違反4200件

### 保険販売 調査まだ4割

かんぽ生命が進める不適切な保険販売の調査で、法令違反の疑いがある。過去5年分の調査対象約18万件のうち、まだ4割弱しか調べておら

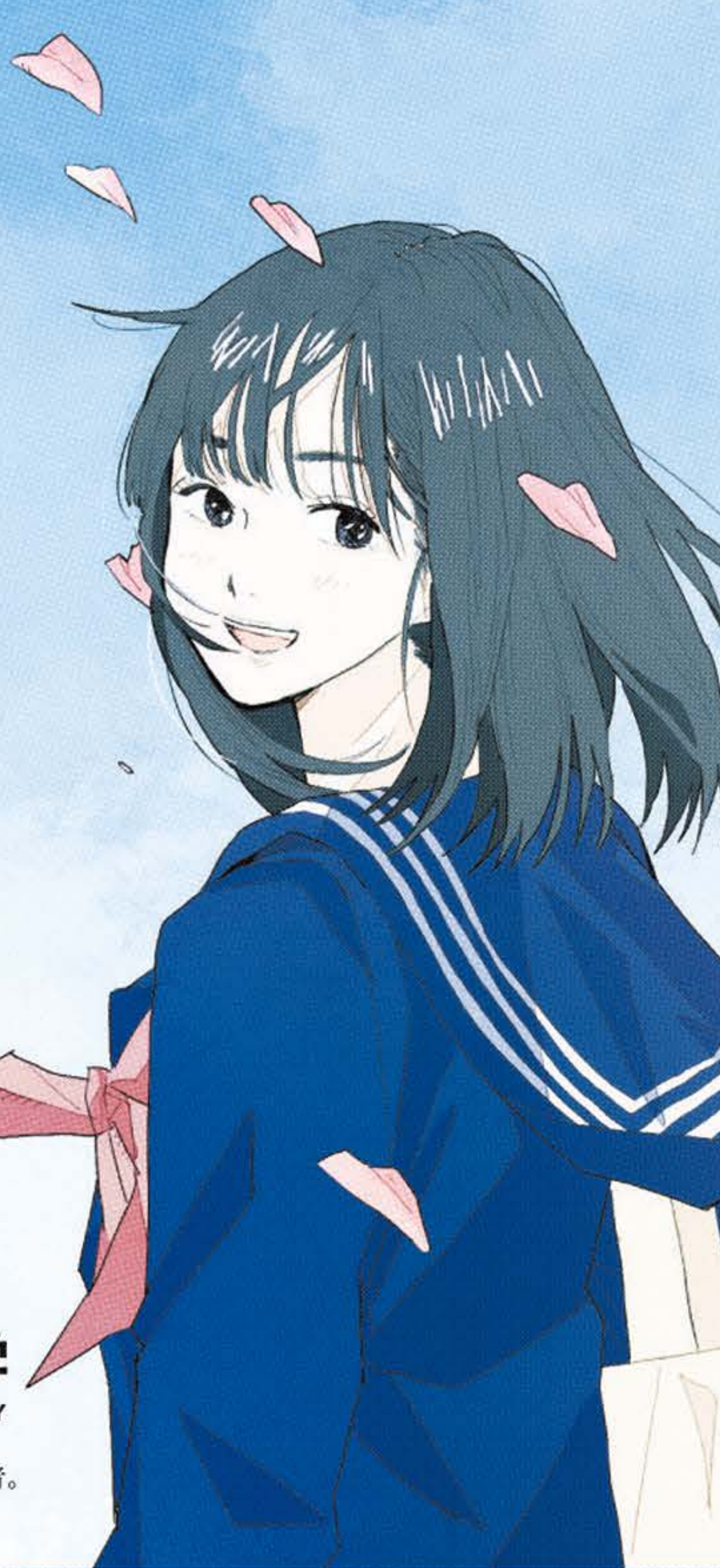
ず、問題のある契約は膨らむ可能性がある。▼経済面 不正拡大で、かんぽは過去数年、年20〜30件ほどの法令違反を金

融庁へ届け出していた。今回の調査で、本来は届け出るべき不正事案が実際はもっと多い可能性が高まった。調査対象の契約「特定事案」は約16万人分の18万3千件。保険の乗り換えの際、顧客に保険料を二重払いさせたり、無保険期間を生じさせたりするなどの不利

内をめぐり最終報告する。これまでに全体の4割弱の約6万6千件の契約者と連絡が取れた。4200件のうち1千件前後は、営業社員が顧客へ保険契約の重要事項を説明しないなどの疑いがある。残りの3千件前後は社内規定違反の疑い。高齢者を勧誘して保険を説明する際、社内規定通りに家族の同意を求めなかったケースなどがみられる。

今回の判明分は契約者への聞き取りなどに基づく。保険を売った社員らにも今後聞き取り、法令違反が実際にあったかを詰める。かんぽと日本郵便、親会社の日本郵政のトップは30日に記者会見を開き、調査の中間報告を発表する予定だ。特定事案のうちまだ6割以上の契約者に接触できておらず、中間報告の時点でも件数は増える可能性がある。(新野あゆみ)

Weather forecast table for various cities in Japan, including Osaka, Kyoto, and Tokyo, with columns for temperature, precipitation, and wind.



「会ってみたいなあと思いい、お手紙しました」

学びがむすんだ、小さな研究者と学者の出会い。

「このあいだのお葉書の中に『修学旅行で会えるかもしれないね』と書いてあったので、またお手紙することにしました。」

春先に届いた少女からの手紙は、そんな書き出しから始まっていた。荒木は、手紙をやりとりするなかで彼女の修学旅行先が京都だと知らされていた。「あつかましいんじゃないかとずっ」と迷っていましたが、せっかくなので行ってみたいなあと思いい、お手紙しました。」

少女の手紙には、修学旅行の行程が細やかに記されていた。

\*\*\*

荒木が少女と交わした手紙のうち、残されているのは、ここまでだ。荒木自身は多忙のため少女に会うことが

\*\*\*

できなかったが、荒木の妻が訪れ、少女と語りあうことができたという。

\*\*\*

少女の新しいことを知りたいという思いが、学者である荒木との縁をむすび、彼女の成長をうみだした。そんな「むすんで、うみだす。」精神は、今も京都産業大学に生きています。

神山天文台の研究者が参加して提案した世界初の慧星探査方法が、欧州宇宙機関(ESA)の新しい探査計画として唯一採択されるなど、画期的な研究を推進し成果をあげている。

それら先端の研究もすべて、学生や研究者たちの「知りたい」という強い思いから生まれたものだ。

次に新しい何かをうみだすのは、そんな好奇心を持って学ぶ、あなたかもしれない。

第1話・第2話 webで公開中

第2話あらすじ 京都産業大学創設者 荒木のもとに、自身の著書「大宇宙の旅」を読んだ中学2年生の少女から手紙が届いた。天文学について熱心に質問する彼女の好奇心に感銘を受けた荒木は、その後も彼女と手紙のやりとりを続けていた。

イラスト: かとろい

星物語 完 (全3話)

9/29(日) 10/19(土) 公募推薦入試対策講座「事前申込制」

京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY

荒木俊馬(あらかしとま)…宇宙物理学者、天文学者。京都産業大学創設者であり、初代総長を務めた。